

大村市の状況と今後の取り組みについてお知らせします

4月20日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が、7月30日に文部科学省から公表されました。そこで、今回の調査の結果と今後の取り組みについてお知らせします。

◎本年度の調査結果

校種	調査教科		全国平均正答率 95%信頼区間 ※1	本市と全国平均 の比較 ※2
	小学校	国語	国語A 国語B	83.2~83.5 77.7~78.0
算数		算数A 算数B	74.0~74.4 49.1~49.5	同程度 同程度
中学校	国語	国語A 国語B	75.0~75.2 65.1~65.5	同程度 同程度
	数学	数学A 数学B	64.4~64.8 43.1~43.5	上回る 上回る

A:主として知識に関する問題

B:主として活用に関する問題

【注意】

※1) 本年度の調査は、いくつかの抽出された学校の調査結果から全体の状況を推測する抽出調査です。したがって、結果は平均正答率が含まれる範囲で示されています。

※2) 本年度の調査は、全市町が均一に抽出されておらず、学校数、児童生徒数などに偏りがあるため本市の結果を数値や範囲で公表することはいたしません。

ここでは、抽出調査の結果と各校で独自に行った採点の結果をもとにして、全国の平均正答率と比較した結果を示しています。



○小学校国語Bで全国平均を下回るものの、小・中学校の平均正答率は、おおむね全国の平均正答率の区間内か、区間を上回っていることが分かりました。

◎4年間の調査結果から

※19~21年度の数値は、平均正答率の差(本市-全国)

		19年度	20年度	21年度	22年度	特徴的な状況
小学校	国語A	-2.3	-1.8	-0.9	上回る	徐々に改善が見られ、全国を上回った。
	国語B	-3.0	-4.5	-2.3	下回る	4年間連続で課題が残る。
	算数A	+0.5	-0.9	0.0	同程度	
	算数B	-2.2	-2.5	-2.2	同程度	3年間の状況が改善されつつある。
中学校	国語A	+0.6	-0.2	+1.9	同程度	
	国語B	0.0	-1.1	+2.0	同程度	
	数学A	+1.4	-0.8	-0.7	上回る	近年の状況が改善され、全国を上回った。
	数学B	+1.8	-0.3	-0.2	上回る	近年の状況が改善され、全国を上回った。

○調査の対象となった子どもたちが異なるため、単純に比較はできませんが、小学校国語Aや中学校数学A、Bについては、各校の学力対策が功を奏し、全国平均を下回る状況から上回る状況に改善されています。算数Bについても、徐々に改善されつつあります。

△一方、小学校国語Bについては、活用についての学力対策に取り組んできたものの改善が見られないことから、今後、対策内容の見直しを進めていきます。

○本年度の中学3年生は、19年度の小学6年生時にこの調査を受けています。表の を比較すると、改善の状況が次のように見えてきます。

国語A、B……全国平均を下回っていた状況から全国と同程度となり、改善が見られつつある。

数学A……全国平均を上回っている状況が維持されている。

数学B……全国平均を下回っていた状況から上回っている状況となり、改善が見られる。

◎学習状況調査の結果から(抜粋)

(単位：%)

質問事項		小学6年生		中学3年生	
		本市	全国	本市	全国
生活面	毎日朝食を食べている	97.3	96.4	95.5	93.3
	夜11時(中学生は12時)までに就寝する	98.8	83.7	77.7	72.2
	7時までに起床する	92.5	77.1	78.5	67.1
	携帯電話で通話やメールをしている	14.3	23.1	42.5	52.8
	テレビゲームを2時間以上使用する(月～金)	21.1	23.0	18.0	21.6
	インターネットを2時間以上使用する(月～金)	5.1	7.5	15.3	18.1
学習面	授業以外に1時間以上学習をしている(月～金)	55.9	58.2	65.6	66.2
	学校以外で30分以上読書をしている(月～金)	32.8	35.9	31.9	27.3
	国語Bの問題にあるような、長い文章を読むのは難しい	40.2	38.7	55.9	59.3
心の面	人の気持ちが分かる人間になりたいと思う	92.9	92.0	93.9	92.7
	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.8	95.0	91.0	91.1
	今住んでいる地域の行事に参加している	56.3	61.6	20.0	34.3

小・中学校ともにこれまでの結果と同傾向であり、全体的におおむね望ましい状況です。

○生活面では、「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みが定着・充実しており、全国平均を大きく上回っています。また、携帯電話、テレビゲーム、インターネットの使用状況は、全国平均を下回り、家庭での使用の約束づくりなどがうまくなされているようです。

△学校外での学習時間、読書時間は十分とは言えず、家庭学習や読書の習慣づくりが大事です。このことが、長い文章を読むことへの苦手意識の克服にもつながります。

○心の面では、優しさや規範意識などがしっかりとほぐまれていることが表れています。

△一方で、「地域の行事に参加する」子どもの数は、昨年度と比較して小学生が微増、中学生が減少という結果です。家庭での働きかけをお願いするとともに、市としても「郷土を誇りに思う子ども育成事業」の充実を図るなど、魅力的なまちづくりに努めていきたいと考えています。



◎調査結果を生かした取り組み

市では、この結果を分析し、子どもたちの学力・学習状況の向上のための対策を行っています。これらの取り組みをより一層効果をあげるためには、保護者や地域の皆様のご理解ご協力が必要です。

今回の調査結果を子どもたちのために活用することを最優先とし、全ての小・中学校で各校の結果に基づいて、次のような学力対策を実施しています。

- ◇子どもにとって驚きや納得が生まれる魅力ある授業を行う。
- ◇重点課題となる問題を解き直す時間を設けるなどして、補充指導を行う。
- ◇全小・中学校の代表教員が集まり、効果的な取組事例を共有して各校の対策に生かす。
- ◇小・中学校間で、連携して取り組む内容について協議し、学習面でのつながりを強くする。
- ◇本市で毎年実施している標準学力検査や県教育委員会が作成した「基礎・基本チャレンジ問題」などに取り組んで対策の効果を検証する。

■学校教育課(内線364)